

わが国初の電信機工場

田中工場

- 住所
東京都銀座8丁目9-15
- 交通アクセス
地下鉄銀座線
新橋駅 1番出口 100m

■電信機の製造

田中工場は、わが国で最初に電信機を製造した工場です。現・株式会社東芝の源流の一つとされ、わが国の電信機器工業界の黎明期における発展に大きく貢献しました。

同工場は、明治8年(1875)、「からくりや儀右衛門」とも呼ばれる田中久重により、東京新橋南金六町9番地(現在の中央区銀座8丁目9番地)に店舗とともに設けられました。

これは、明治政府が東京～横浜間に電信線を架設し、電信事業を開始した明治2年(1869)から6年後でした。

当時、電信機とその付属品は、全て外国からの輸入品で、これらの修理と国産化のため、明治6年(1873)、工部省は電信寮に製機掛を置き、この時、田中久重を郷里九州久留米から招きました。久重75歳の時で、この上京から2年後に独立・創業したことになります。

■当時の地図での場所

図1は、田中久重が田中工場を設けた翌年の、明治9年(1876)の地図です。同工場のあった南金六町9番地は、住所表示から「田中工場」と追記した赤丸印のところになります。



図1 明治9年(1876)の地図
田中工場設立の翌年 京橋図書館蔵



写真1 東京新橋南金六町の田中工場表構え
この建物の通りは、明治5年(1872)から整備された「銀座レンガ街」で、その建物の特徴である1階に白い列柱、2階にベランダ、通りには街路樹が見られます。

東芝科学館提供

■現在の状況

明治時代の地図(図1)を参考に、現在の地図(図2)において、田中工場の位置を追うと、三十間堀川などが埋められ、また、出雲町と南金六町間にあった道路が無くなり街区が統合されるなどの変化はありますが、9番地街区におけるほぼ中



図2 現在の地図
目標はソワレド松川ビル

間辺りの位置から、赤丸印の辺りになります。

現地を訪ねたところ、田中工場があったと思われる場所は、銀座8丁目9番地街区の中央通り側のほぼ中間に位置する、「ソフレド松川ビル」辺りになります。住所は銀座8丁目9番15号でした。

なお、辺りを調べてみましたが、当時を偲ぶようなものは見当たりませんでした。



写真2 田中工場跡
銀座8丁目交差点から撮影



写真3 田中工場跡の近景
目標はソフレド松川ビル

■田中久重と田中工場

田中久重（たなか ひさしげ、1799～1881）は、九州久留米のべっこう屋の長男として生まれ、幼少の頃から発明の才を発揮し、からくり人形、懐中燭台、無尽灯などを作って人々を驚かせ「からくりや儀右衛門」とも呼ばれました。京都においては「機功堂」を経営し、万年時計などで名声を博し多くの機械類を創出しました。

54歳で、幕末の佐賀藩に招かれ、大砲、兵器の開発や蒸気機関、汽船などを作り、このあと久留米藩の兵器、機械類の製造に従事しました。

明治6年（1873）、75歳のときに、工部省に招かれ郷里久留米から上京しました。上京後は、ひとまず麻布今井町（現、港区六本木3丁目）の大泉寺（現存せず）の2階を作業場として、境内の観音堂を鍛冶場として借り、電信機作りに取り掛かりました。芝西久保神谷町（現、港区虎ノ門5丁目）を経て、工部省の注文に応じ、ヘンリ電信機10台

の試作やモールス電信機50台を製作しました。

こうして将来の見通しが立ってきたところで、前述のとおり、明治8年（1875）、新橋南金六町に工場兼店舗を設けました。これが日本最初の電信機工場で、現（株）東芝の創設の地になりました。

■田中工場のその後

「万般の機械考案の依頼に応ず」と大書した看板を店頭に掲げ人目を引いた田中工場は、その後、工部省の指定工場になり発展していきますが、明治11年（1878）、工部省が電信機製造を直営化したことから、電信機以外の一般機械・通信機類を製作しました。

明治14年（1881）、田中久重は83歳で没し、2代目田中久重（養子）が汐留（現、東新橋）にあった工部省電信寮製機所に勤めながら、工場経営にあたりました。

この頃、海軍では水雷の製造を急いでいて、東京芝赤羽の海軍造兵廠だけでは設備余力がなかったことから、水雷の製造を田中工場に一任してきました。明治15年（1882）、2代目田中久重は、この事業を推進するため工部省を辞め、新たに芝浦（現、株）東芝の本社所在地）に敷地約1万m²の大工場（田中製造所）を建設し移転しました。



写真4 明治15年当時の田中製造所
東芝科学館提供

その後、海軍の注文を中心に田中製造所は順調に発展しますが、海軍の指名入札から競争入札への変更、海軍工廠での直営化などがあり注文が減少し経営が苦しくなり、明治26年（1893）、最大融資先の三井銀行の管理下になりました。同時に、社名を芝浦製作所に変更するとともに、電気事業が盛んになりつつあったことから電気機械の製作を始めました。

明治37年（1904）、日露戦争を契機とした重工業の発展による好景気、事業の好業績のもと、株式会社芝浦製作所として独立しました。

昭和14年（1939）、「芝浦製作所」と「東京電気」が合併し「東京芝浦電気株式会社」になり、昭和59年（1984）には「株式会社東芝」に社名を変更し現在に至っています。